

地上漫筆

全

千 亥 6

31

以余觀於海內善書家亡有我
烏石先生者何以至此謫先生
筆力通動新蛇飛動試求彼石
自我來古者蓋解矣若我先生
墨妙何事石之為然一點一畫必激
諸古不偶作一字折自游者宗第一



人豈能守成者邪也今學生先生者
衆不知有能不变古者邪有能不
爲自運者邪有能不肯先生法者
邪是有之我來見之矣先生者
淺腕力之弱固不其海內書家爲
然於在先生法不爲自運者不敢

讓之人也今茲秋步安書賈玉樹
堂寄示西菴上人詩云李淳八十四
法請序玉樹所藏書法始舍在臨
寫西菴上人來雖未見其人以其
書既知其不爲自運能奉先生
人嗚呼矣方同心者有上人者

名々之嘉哉書肆請序遂能
序者爾若夫上人書蹟精熟具
眼者一見稱之固不俟余贅之云
寶曆戊寅冬十月

東都龜谷寺主書



記上漫字

大谷本純堂

。そま書ハ自然ニ肇ル。自然とてみ立て陰陽
生々。陰陽既生ス。形勢出。蔡邕

書々玄妙の技なり。おれはの通人君子に
あらずん。得てこれを述べしむ。王右軍

かふはの歌ハ。みうものおんをめ。阿さう山乃
かとのを。うねめれたるをよみ。此二歌ハ。

歌乃父母のやうめを。延習ふかよのうゑ
ふもーりる 古今序

もをかきたるふも。ぬうきこもいなる。ちかこの
點^{テシ}長^{ナガ}より。アがき。たこものうかく。氣色をめるハ。
うちらふかどくち。あーき。たをれど。おまたの
まぢと。こやうにうきえなる。いうちの筆きく
ふれど。今むなび。うかづみ。おぢちに
かんよりける 帚本

。唐の太宗ぶか。書艸を屏風書して。て。
羣臣^{グンジン}に示^シる。筆力^{ツヨク}道効^{ドウケイ}。一時の絶^{セツ}。うて
朝臣み。謂^{イハ}く。のたまふ。書字。小道^{キウ}。急
務^ムに。うすい。も。と。お。或^ア心とや。め。た。を
日と。ま。は。ふ。ま。め。り 張懷瓘

。御屏風四帖に。うちれ。清もか。せ。お。く。か。ら。乃
ちやのう。ま。だ。ん。よ。あ。と。繪。れ。さ。あ。か。も。う。う。な。ん
ん。は。ち。り。ろ。き。春秋^{アキ}乃。づ。う。ま。か。し。り。も。大。の

は厚ん此墨はぎの如やくさる。めもとよ。す。
ねもむかーさめさくちんもめり。若菜

腕中有鬼故不任書記。みづゝ識鑒ハハハハ。
書を能くせざることをしり。王元美

右軍ハ人品もかく高。かくゆふその書。神品に
い。奴隸小夫乳臭の子。あたみ筆を執。ことと

まひひ暮みさるにらゝ。拙の能くおこ。内。唐

俗ぬーむーく。格古要訣

人の品たぐむかれぬ。人ふと。か。ばれて。

かくる。い。も。あ。は。く。ま。あ。ん。ふ。そのけ。い。こ。よ。か。う。る

べー。中。此。あ。や。なん。人の。あ。は。く。ま。あ。ん。ふ。そのけ。い。こ。よ。か。う。る

た。あ。ん。ふ。そのけ。い。こ。よ。か。う。る。わ。う。く。き。い。こ。よ。か。う。る

わ。う。く。き。い。こ。よ。か。う。る。わ。う。く。き。い。こ。よ。か。う。る

ま。あ。ん。ふ。そのけ。い。こ。よ。か。う。る。わ。う。く。き。い。こ。よ。か。う。る

く。その品。や。い。い。つ。ま。い。こ。よ。か。う。る。わ。う。く。き。い。こ。よ。か。う。る

く。その品。や。い。い。つ。ま。い。こ。よ。か。う。る。わ。う。く。き。い。こ。よ。か。う。る

小見字と寫す時。紙を^カむ^ヒと^ユる。大字
小寫さ^カし^ヒべ^ヒ。長^{ヒトナリ}く後大字を寫し得て。
も^ウー小字を寫しとき。手腕^{ウデクニ}拘定む。若^カく後
稍^ヤ大なり字寫しときを^ヨる。予^イ大の弊^{スガレ}なり。字を
寫す時。あ^カ上大人を寫す。二三日あ字に通^スとを
得む。あ字^カ端^ヘふ^カて。字を換^カへ^カ。
も^カどか^カふ^カ海^カを^カた^カめ^カ。も^カぐ^カー^カう^カつ^カけ^カる^カ。
め^カ終^カむ^カ。若紫

。ま^カふ^カに^カな^カめ^カる^カわ^カる^カの^カい^カさ^カか^カめ^カも^カこ^カに^カ
ま^カぐ^カひ^カて^カわ^カく^カを^カ枕^カ紙^カ
。お^カか^カー^カ人^カよ^カく^カ。こ^カと^カさ^カさ^カお^カさ^カか^カく^カか^カき^カな^カる^カお^カる^カ
い^カさ^カさ^カお^カう^カけ^カた^カれ^カも^カ。や^カく^カは^カも^カな^カも^カも^カ今^カ
き^カこ^カゆ^カ。若紫
い^カさ^カさ^カの^カけ^カも^カさ^カ。お^カい^カさ^カさ^カさ^カえて^カ。お^カく^カよ^カさ^カかい^カお^カ
へ^カ。故^カ尼^カ君^カぞ^カに^カさ^カる^カも^カ。い^カま^カめ^カう^カき^カも^カな^カから^カ
も^カい^カさ^カさ^カかい^カお^カる^カん^カと^カ見^カた^カか^カふ^カ。同^カ上

倒鉤何の害けん

。あゝめ。双鉤をかご字といふ影書ガケジの誤なり蕉花老人

。初ハツ子シ此時トキ佳紙ヨキカミを用ゆ。紙カミを怯コシむ。あゝめハ

惡筆アクペン越コ用ヨウゆ。後筆ノチをえくさしむ學範

。張芝チヤシ池チに臨リンんで書カキとるふ。池水チスイふとく果ハる。

鍾繇チユウ抱犢山ボウドに入イりて十ジュウ年ネン。木石ボクシツ盡ツクく果ハる。趙子昂チウシヤウ

十ジュウ年ネン樓ロウとくらむ。夔ケイ子山シヤン毎日マヒ衙ヤみ坐マして。一イチ子シ

字ジと寫シし盡ツクして。後ノチ小勝コシヤウみ進む。唐タウの太宗タウシヤウハ馬上マウシヤウに

簡板カンバンを制セイして字ジを書カキ。夜ヤ半ハン燭ソクを取トルて。茶亭チャテイと

字ジをたふ

。急就キツキウ奇觚キコ與衆異ヨリ觚コ者ハ六面八面皆書ロクメンハツメンカミカキとて。

註チュウ觚コ者ハ稜也リョウデ急就篇キツキウペン

。古コ紙カミ。事コトあるハ簡カンみあるを。また單執タンシツ

一札イツシツ。少シヤウを簡カンといひ。諸簡シヨカン越コ連編レンペンと。策サツや

名ナはく字彙

。伏羲フキ書シヨ契ケイと造ゾウる。書シヨハ文字モンジなり。契ケイハ木キをきさんて。

推し譲りしやいんや雪に及ぶるものや

慵齋
叢語

飛白字の名あり。書家例して。これを知り。た何の
状をつくりしとさしず。按るに王隱曰。飛白
楷制を變せり。本これ宮殿題署。しきあふ
まぐに道勁。文字輕微。しつ満さる。名あけて
飛白とす。あれふまゝ。今の篆字の渴筆。俗のいた
ゆる沙筆。是なり。唐人奇とこの。或、禽鳥
花竹の像を作る。順陵碑に數字あり。今たへ

これを作る人なり。た方外道流。酒肆の壁に書る。
竹のぬき雀のがらの形をなす。つくろ。俗にふくにく

むべ

楊升庵外集

。あれ書を結ぶ人。空海のこれ。書體を神秘文と
名づけ。扁額に相生相刻。しりて。増減を秘法傳、
授もありて。吉凶の出入をもつ。按するに弘仁
二年六月。空海飛白の書一卷を。朝廷へ献じ。遣
ふあり。在唐の日。一度此體を見て。試みこれを

あつせーば。秋納の表ふえたる。彼和尚ものなり。
在唐の日。宮殿小題せーふをみることをほろ。我
朝みかくる後。詔と受けぬる。宮殿小署より
とれ。鳥獸^{テウシウ}死^ヒけ^グを周ひらき。ふとうたふ。
へーと。蕉花老人

杜伯度ハ艸書と善^{ミラン}。章帝これと愛^{アイ}上表せ
ま。艸字をばし。是と章艸といふ。
書断

唐人書判を以て。士を取ふ。ふと士大夫の
字画類^{ラム}。科^カ字^キの習^{シウ}氣^キなり。顔魯公千祿字を
を作さ。少終其證なり。

今の世艸書とす。梅^{ウメ}ともの。或ハ真^{マコト}の
とす。さき大から安あり。真ハ新^{シン}生^{セイ}。行^{ユウ}
草とせむ。真ハまゝ。行ハゆぐ。草は
走^{ソウ}る。い。ゆきま。い。守。て。よ。
ま。あ。し。東坡

は。ま。に。い。の。紙。と。き。は。な。い。

行書の於必れこと。隋唐以來もめりて。
おみよつくる。故に前輩のいふ。於字必字。艸
書なり。是なり。佩文齋

。王逸少代書人。いまだ姓氏をばいふ。ふせ。
右軍郡小失してより。雲々告てけり。以後
まきみつゝ書せり。こゝに一人をておせり。む。
よの中已うつ。いふ。其緩異を見てよん。
末年の書と。子敬年十七。もつた。此人の書と

效ふ。つゝゆに。ふれに相似たる。とを。陶隱居

。信とて信をつた。疑ひ。疑はけふ。事物

。字画。も。甚と。世の法書

古今。逸少を梅首と。たかく。訓と。や

くふ。精粗真偽。當時ふあり。

後世あり。かへき。逸少嘗てを

作。表紙書。穆帝に上。帝張翼とて紙の

色を。長短相類。と。臨寫して

後小頭して是に答ふ。視てやとおぼえど。詳小視て

歎いて曰。小児生をこころ。まなづちあうり。當時小

ありてみはううふ事かの大。蘭亭續考

。元の章徳懋。子昂のあふふ。中ちよく似たり。

代筆して。子昂小書を^{モト}求むる者の責を^{セメ}ぬき

あり。まゝ明の俞文中。子昂の書は^ミういて。賢

第たり^{かも}。好事のその款識^シは^{シユ}いふ真を

こころあり

。唐の蕭誠。偽りて古帖をつくり。李邕に^シあて

曰。右軍此書^キなり。邕^キ然うて曰。是真物^シ也。

誠實を以て邕小告ぐ。復視曰。細み^ミられども。いまだ

と辨^シるこころ^ミなり。古人の聖跡

辨^シトやすう。學古要訣

。吾ろて思を^ミはじて書を作る。まなづち^カ合せり

なり。時小識者^スと稱する者^ハ。輒ち^ヒ引示^シる。その

中^ウ巧麗^ル小目^ミを^ミそめず。誤失^アられ^リ。翻^カて^ハ差賞^サを^ミ。

既^{スレ}み所見^スよく。ところも所聞^スふさる。あひ年
職^{クシヤイ}ふか^スるきを以て。かろしく陵^リ誚^シ哉いそを。
余^カをもち^ニ連に假^カふ細^シ縹^テを^ニま^ニけ。こ^ニ枕^ニふ
頭^ニす^ニに古^ニ目^ニを^ニい^ニて^ニま^ニれ^ニも。賢^ニ者^ニみ^ニま^ニの^ニを^ニい^ニて^ニた^ニめ。
愚^ニ夫^ニ聲^ニを^ニつ^ニぐ。さ^ニる^ニふ^ニて^ニ毫^ニ末^ニの^ニ奇^ニ哉^ニ賞^ニ一^ニ鋒^ニ
端^ニに^ニ失^ニを^ニ議^ニさ^ニる^ニこと^ニ罕^ニなり^ニ

。よ^ニ親^ニ人^ニの^ニは^ニ前^ニに^ニ。女^ニ房^ニの^ニま^ニさ^ニゆ^ニふ^ニに^ニ。心^ニめ^ニき^ニふ^ニ
つ^ニい^ニま^ニき^ニ。お^ニは^ニせ^ニい^ニき^ニな^ニと^ニ。た^ニま^ニも^ニあ^ニる^ニの^ニい^ニな^ニる^ニ
屋^ニに^ニハ^ニな^ニる^ニハ^ニい^ニん^ニさ^ニれ^ニと^ニ下^ニか^ニと^ニに^ニあ^ニふ^ニと^ニ
已^ニさ^ニや^ニめ^ニて^ニ。は^ニ硯^ニを^ニら^ニか^ニも^ニあ^ニる^ニら^ニや^ニき^ニ。枕^ニ乃^ニ紙^ニ

。御^ニ頭^ニい^ニて^ニぬ^ニま^ニも。い^ニか^ニち^ニを^ニら^ニか^ニり^ニい^ニて^ニぬ^ニま^ニも^ニ
ぬ^ニも^ニい^ニま^ニあ^ニる^ニい^ニち^ニも^ニあ^ニん^ニか^ニも^ニあ^ニる^ニか^ニと^ニ人^ニも^ニ
わ^ニい^ニか^ニし^ニす^ニれ^ニバ^ニ。か^ニち^ニを^ニあ^ニん^ニい^ニち^ニも^ニた^ニり^ニ

。明^ニの^ニと^ニれ^ニ。便^ニ殿^ニあ^ニる^ニ書^ニ法^ニを^ニ御^ニ覽^ニま^ニる^ニこ^ニき^ニ。人^ニ
威^ニは^ニ恐^ニま^ニ。汗^ニを^ニか^ニき^ニも^ニ顫^ニか^ニき^ニ得^ニさ^ニり^ニに^ニ。
陳^ニ復^ニと^ニい^ニふ^ニ人^ニハ^ニ。進^ニ退^ニお^ニ雅^ニめ^ニ。書^ニを^ニら^ニゆ^ニ帝^ニより^ニ

あぶねいて。酒を賜いさるなり

蕉花老人

さうにも此のさうも。歌のかりふあをさうん

をも。あうとくちあをさうけねた。わいて

ふふのきりる 枕双紙

。張旭の草書。毫^{フテ}毫^{フテ}ゆひ。大^{サテ}は叫^{サテ}か頭^{サテ}を

水墨の中み搥^{ツク}たり。あはれり天下呼^{ヨシ}て張顗と

いひり。又杜子美が飲中八仙歌も。張旭三杯

草聖傳。脱帽^{アラハス}露頂王公前^{アラハス}より。其いさ

なりさう

。宋の黄長睿いさ。王右軍の草書十七帖を。

とくも師とす。是書中乃就なり 格古要訣

。あに傳^{ツタヘリ}なる。法帖^{フミ}もこれかきうをあましくいあ

ちさ。のちくハ師とくき人もなてるん。あ乃い

かひい。あをいさうての人ふ。いさへくもあじ

成やうてはあうい。傳さるべきさうも

かき。いさ何れもあんのあふ

南路體テイふふ。王元美も粗醜ソウシウ俗惡ソクアクなり。

顔真卿柳公權より始りて此風南方へかへり

ゆへ名つけたなり 蕉花老人

南唐の李后主顛勢筆フルイフデとて書けふ。又金錯刀

此法もなり。やと大文字、或書けふに筆を用ひぬ

して。帛キヌと巻マキ聖を染み書けふ。是を撮襟サツキンとふ 同上

。吳正道、東隅人リクシヨ六書又明なり。許氏、説文

たゞざものゆへ、あはれと補ぬ。臨川の吳文正公

澄セイふて曰、楷カイの二字、假借なり。いふ義をと

まり。曰、何をもつて木みきふて義をたす。曰、昔

模木周公の家上みきふ。その花春は青く、夏は赤く

秋は白く、冬は黒く。その其正セイきをいつたり。楷木ハ

孔子家上みきふ。それ餘枝ゆけり。かきぞ。質

其直ナラヤを得ウルとてたり。正セイ直チキのふし。法ホフ

則ソツとてく。いふんや周孔の家ケに在アリをや。問

いふ。何のちチ。曰、淮南王ケ草木譜キみ出デつ

。後漢の李膺、傳ふも。後進楷楷モカイとあり。又木此名。
孔子卒一經ひて後。弟子松のく郷土乃木を植
きたりて。冢上に移ツキ進。唯楷のく生一易同ト。

。唐此太宗の云。王濛を紙中ぬ臥せしめ。徐偃を
筆下にサ坐せしめ。あつて蕭子雲をツミ嘆ふ。

。まんなのさるるわに。かんかあけなきにじ
あやかしめれ 梅枝

。呂向ハ草隸ニエなり。よく一筆に百字成環寫す。

索ナカ髮乃カミとあり。廿五連綿レンミとあり。字彙

。かきとふ、このまゝ上よ。さあににえわも
傳ふ。まゝ給ふ上よおはれど。聖カキきになれ
て。つぎに更にをとりまゝけちめ。ふもまゝ
已カキれど。かきまど人の見及ぬ蓬萊ホウライの山。あゝ海の
いろはる。かゝ國此猛きけとまぬかたちめ。ふ
ゝ如鬼の顔なごのねとく。つくりたるもの。
はまきうあつひとき人の目と驚うて。あちりあち

似ぎうめどさうありぬ。よのつゆ山はたゞ
もひ。水乃かうれ。めめちうき人此家居るさあけ
ふとて。ちうくやうむなるかどとあつふ
書もさう。さうかな。山乃。氣色さう。よは
たれてたう。けちうき。かきの中をいれ心
あひ。をれてるをたん。上よ。いれあひ。いれ。
あるもの。いれ。ぬ。あけ。め。 帚木

うへも。よるはのおくにす。て。を。興。いれ。もの。

か。たり。た。た。の。も。あ。い。や。に。あ。り。た。

あ。い。た。 結合

。古人。画。一。葉。こ。を。粉。本。と。ふ。前。輩。多。く。實。と。

これ。を。た。ふ。け。た。い。地。の。さ。う。て。を。い。れ。る。

こ。の。後。自。然。の。妙。あり。宣。和。紹。興。の。比。に。さ。あ。る。ふ。乃。

粉。本。神。妙。な。る。もの。に。あ。る。 學古要訣

。あ。め。て。い。や。き。筆。と。い。ひ。彼。の。あ。る。を。柳。炭。と。

ふ。 蕉花老人

くを外ありて結構をまことのつゝも。かゝる心の字に
動を欲し。流を欲し。図妙居す。これと一ノへの
けにいつ。更ぬ一字をともしめ。うもに對^{ツイ}をあら
おとを得^{ウケ}へ^{字彙}。

。蒙恬造^{ツク}る。寸がもち。秦筆の。鹿毛と柱^{ツク}。一。
羊毛を被^{ウケ}と^{ウケ}い^{ウケ}も^{ウケ}蒼毫あり。兎毫竹管ま

あゝ

。許叔重い^{ウケ}も^{ウケ}楚^{ウケ}み^{ウケ}これと聿^{ウケ}とい^{ウケ}。吳^{ウケ}み^{ウケ}これと
不律とい^{ウケ}。燕^{ウケ}み^{ウケ}これと拂^{ウケ}とい^{ウケ}。秦に^{ウケ}は是と
筆^{ウケ}とい^{ウケ}ぬ

。鄭^{ウケ}璞^{ウケ}い^{ウケ}も^{ウケ}兩雅ふ不律^{ウケ}と^{ウケ}筆^{ウケ}とい^{ウケ}。寸がもち
あ^{ウケ}も周^{ウケ}のとき^{ウケ}。さ^{ウケ}に筆^{ウケ}とい^{ウケ}

。荀子賦^{ウケ}い^{ウケ}も^{ウケ}。非帛^{ウケ}非彩^{ウケ}成^{ウケ}文章^{ウケ}。非日^{ウケ}非月^{ウケ}天
下^{ウケ}光^{ウケ}匹^{ウケ}夫^{ウケ}降^{ウケ}之^{ウケ}即^{ウケ}為^{ウケ}聖^{ウケ}。諸^{ウケ}侯^{ウケ}降^{ウケ}之^{ウケ}定^{ウケ}四方^{ウケ}

。司空^{ウケ}苗^{ウケ}中^{ウケ}條^{ウケ}山^{ウケ}は^{ウケ}か^{ウケ}る^{ウケ}。木^{ウケ}枝^{ウケ}と^{ウケ}さ^{ウケ}り^{ウケ}て^{ウケ}筆^{ウケ}管^{ウケ}につ^{ウケ}る^{ウケ}人^{ウケ}
これ^{ウケ}を^{ウケ}問^{ウケ}い^{ウケ}も^{ウケ}。幽^{ウケ}人^{ウケ}筆^{ウケ}た^{ウケ}き^{ウケ}事^{ウケ}や^{ウケ}に^{ウケ}か^{ウケ}れ^{ウケ}に^{ウケ}

雷電して石の在るを乞ふるなり

東坡曰。余の家文獻硯あり。底に款識有り。吳

順義元年。知士汪少微。銘ありといふ。松操。寢烟。褚

英。鋪雪。毫類如飛。人間四絶

筆硯紙墨と。文房の四神と名づけし。元人

より始まる

蕉元老人

後漢北和帝の時。蔡仲敬。樹膚にふみ。漱布

魚網を用ひて。書寫をつくる。天下蔡侯紙といふ。

按るに。前漢の皇后紀に。すでに赫纁紙ありと。

紙。敬仲ふと。すにけし。

ち乃むやのあきし。色はい。花やうなるに。これなる

草の歌と。ゆゑにす。みたま。かきあ。さる。見

あかきりなり

梅枝

か。此紙のい。やす。なるに。草ふ。か。起。る。あ。く

ま。て。め。た。一。え。お。心

同上

唐人。生紙。熟紙あり。熟紙。妍妙。輝光なり。

シラヒト

イロカニ

生紙。喪つものに用ひぬ。韓退之陳素に
あたふ書牘みたり

延喜の帝の古今和歌集。唐の詩をもたて紙を
つきて。かゝるもの乃こそ人のかゝる紙乃こそ同一き
玉軸だんのかゝるをみひたし。あはれなり。て。卷
おとに清み乃こそをえつ。いゝなり。かきけさせ
たす。梅枝

この此乃世。たぐなり。ろき紙給をそめ。ふ
おとを。いめ乃。た。い。る。き。り。結合

みちねに。か。み。す。い。つ。め。あ。や。き。さ。の。
あ。の。や。に。か。き。り。柏木

。白きとれ。と。た。る。これ。は。今。か。ろ。ん。ゆ。こ。こ。
を。ら。ゆ。け。と。は。せ。る。外。丑。力。た。す。る。う。
是。い。ふ。と。き。こ。か。き。て。わ。る。た。の。う。こ。こ。
ぐ。ん。さ。ゆ。ふ。き。ふ。も。う。す。と。現。る。か。ろ。て。
こ。く。た。思。め。さ。な。ふ。ろ。た。か。ふ。も。ゆ。と。お。ん

こころとく。せめさるる。枕乃夢

。唐北元和のころめ。蜀の姪女。薛濤セウタウ小成と製る十

色あり。薛濤紙と号す。此妓紙とて業とす。格古要訣

。東坡いふ。石昌言。李廷珪リテイケイを喜思ふ人の磨ルこ

ゆさす。つる人たをゆいていふ。子不磨ミ墨。墨シ通磨。

子昌言死して墓木拱コウち。墨とていふ。好

事のいふやと

。唐の末墨工李超リセウ。その子廷珪テイケイと共。易水イスイ江を

とて歙州セツシュ小居る本姓ハ奚。南唐李後主。姓を

李氏と賜ふ。此み世に奚廷珪シテイケイ墨あり又李廷

珪テイケイ墨あり。今の墨といふものも亦。李廷珪とて

第一とす。易水イスイ張遇と第二とす。李廷珪テイケイ墨に

二品あり。新紋双脊と上。一脊イッと次ツギ張遇

墨もす。二品あり。易水貢墨イスイ上。供堂

とす。近時袁州陳朗チンランもす。墨に精セイけを

とす。墨シにつぐ。一イッ 字古要訣

。銭次権。聖四九。筆五枝とある。楊州可にかる。
たふあきていふ。硯も得やうかたや。次権いふ。
難かづ。一詩ともしめん。楊子ふら一絶句と、
作て云。小頭奴有五兄弟。十八公生四海郷。過我
多齋無一事。似并終日待陶泓。
近代以来。たふに古を師とせしめて。情小く
道とせし。わつふ姓名を記し。あひて学該膽ハ
あつても。聞見もすくなく。成功としてわづ。じ

なりく精神を費やさしむ

衛夫人

。古の紙かき。乃^ハ世ももれ世も名残れ。あ
はるたふいふも。いふくさあ^ハぬ。よるはのあ。
昔ふ^ハと^ハさ^ハきた。いさく^ハなり^{ユク}行世の末あれ。
かんかの。今の世いときはおくありな。ぬき
跡。さき^ハも^ハさ^ハるやうに^ハあ^ハる。むき心ゆ^ハる。
だ。一寸ちにか^ハいて^ハかんあり^ハな。た^ハあ^ハうき
あ^ハる。外^ハう^ハる。かきいつ^ハス^ハる。梅枝

かゝりて。^イ位置を布^シ一 書法詮要

つましくなるやうにいろく紙をはぎき。もろを
あたふめつじりさばる唐^{カラ}の^カやなまにさばるの
繪も枝かき寸さひたする。屏風のなまきり
かど。いとめきたくことろみり^{須磨}

更ふみ此あさよ。歌乃ありに何もきんをも
あじと仰らまけり。こひて皆かきり^{枕双紙}

梁鵠^{リョウコ}師空官^{シクワン}あまなり。魏の武帝^ミこれと重^{ヲモ}じ

けひて常に書を帳中^{カケ}小懸^{コケ}。宮殿の題署^{カク}おほ
くいさき。鵠^コ手。

彼邦あまも字迹を。もくふこ。王元美^{カミ}集あま
見え付^{ミエツク}。舊花老人^{コウカロウジン}

艸のよに。んかおあにかきまを。やほのく
もき日記^{ニジキ}ああ。何も^{ナニモ}歌かきも
やまき^{ヤマキ} 繪合

大凡^{ダイパン}石刻^{イシスリ}一石^{イシ}のそも。墨^{イシスリ}かきなり。同

かす。紙フツ小厚薄ウス麗細マシ燥湿ヨシカけり。墨カキの濃淡シカリけり。

墨を用ゆに軽重キサけり。刻キめられ肥瘦明暗コキけり。

あまふ。かすめヒトに榮亭サトシ辨ハけり。志シけり。

そとまことに書法を考者ヒト。一ヒトたむサトシて然サトシたる。

一。まさ小肥瘦明暗サトシけり。間ヒト又けり。学古要決

。宰相中納言武部卿の宮乃兵衛督。くら大敵の心

中将あに。けり歌を。おひふかけり。

となけり。ふいふけり。梅枝

。いさう筆をたらけり。けり。かきあけり。

歌もふいふめき。そはなることとをえり。

た。三きり。けり。に。さ。なるふ。めき。

かき。けり。同上

。病術つ替の。ふ。あ。け。なる。さ。と。れ。

い。さ。きたれ。筆のとき。さ。ぬ。あ。け。り。

い。さ。う。なる。けり。歌。あ。け。り。

めき。あ。け。り。女。の。さ。み。も。さ。け。り。

そん。又し女巻も
やまなまの。世みゆひ
やう

侍め

大谷本純堂

大谷本書庫

伍

京都堀川通佛光寺下町

書肆 唐本屋吉左衛門

